

1. 移植コシヒカリの生育状況(6/19現在)

草丈、茎数、葉令、葉色は、平年並みに推移しており、概ね順調です。
 中干しに入っていないほ場は、早急に中干しを行いましょ。

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉令(L)	葉色
H30	37.4	443	9.0	4.2
H29	32.6	397	8.8	4.3
平年値	39.8	427	9.3	4.3

2. てんたかくの穂肥の施用

1)分施肥体系の場合

- ・現在までの生育は平年並みに進んでおり、今後、平年並みの気温で推移した場合、幼穂形成期は平年並み(6月26日頃)になると予想されます。各ほ場で幼穂形成期を確認しましょう。
- ・穂肥は必ず幼穂長2mmを確認して、『追肥3号(注1)』を施用しましょう。注1:穂肥は平成30年産米から変更

<施用時期の目安: 5月上旬植えの予測>

<施用量:kg/10a>

1回目 (幼穂長2mmの時期)	2回目 (1回目の10日後)	1回目	2回目
6/26頃	7/7頃	10	10~13

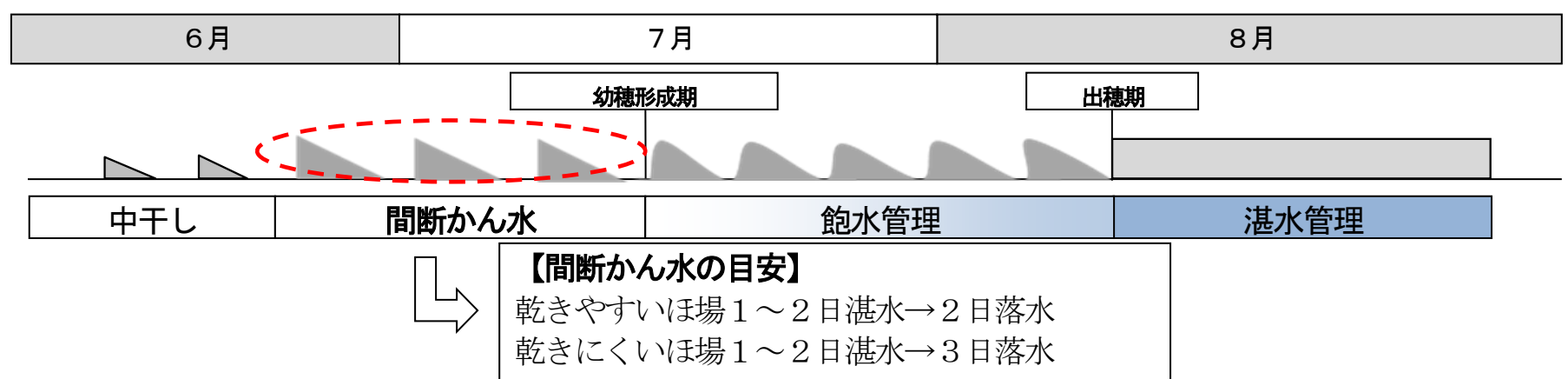
※ 緑肥跡等で、生育が旺盛な場合は、事前に営農指導員や普及指導員にご相談ください。

2)基肥一発肥料体系の場合

- ・原則、追肥の必要はありません。
- ・ただし、6月下旬頃に葉色が4.0を下回りそうな場合は、直ちに『追肥3号』で7kg/10a(N成分:1kg/10a)程度の追肥を行いましょ。

3. 中干し後～幼穂形成期までの水管理

中干し後から幼穂形成期までは「間断かん水」を行い、水と酸素を供給し地耐力を確保しましょ。



4. 病害防除

- 1) 高密度播種育苗栽培(密苗栽培)では、『オブライト1キロ粒剤』又は『オブライト250G』を7月上旬に散布しましょ。
- 2) 紋枯病やごま葉枯病が多発したほ場等では、次のいずれかの薬剤で防除を行いましょ。

病害名	薬剤名	散布量(10a当り)	散布時期(粒剤と粉剤は散布時期が異なるので注意)
紋枯病	モンガリット1キロ粒剤	1kg	出穂3~4週間前
	モンカット粒剤	3~4kg	※粒剤は施用後4~5日程度湛水状態を保ち、7日間は落水しない
	モンカットファイン粉剤20DL	3~4kg	てんたかく:出穂14日前頃
	モンカットフロアブル	1000~1500倍に希釈 150リットル	コシヒカリ:出穂10日前頃 てんこもり:出穂7日前頃
ごま葉枯病	ブラシン粉剤DL	4kg	穂ばらみ期~穂揃期

5. 斑点米や着色米の発生を防止するために草刈りと、大麦跡の管理を実施

対策1:カメムシや病原菌が発生しにくい環境づくり

- 1) 草刈り運動期間中に水田畦畔や雑草地の草刈りを実施し、地域全体でカメムシや病原菌の発生源を減らしましょう。刈り取った草は用水に流さない。草刈りで道路を汚したらすみやかに片付けましょう。

草刈り運動期間 7月1日(日) ~ 10日(火)

【県下一斉草刈日 7月7日(土) ~ 8日(日)】

【農道や畦畔に除草剤を散布する際の留意点】

出穂期近くに除草剤を散布すると、着色米が発生しやすくなるので、除草剤の散布は出穂1か月前までに終わらしましょう。

除草剤を散布する際は、使用基準を遵守するとともに、周辺の作物への飛散防止に努めましょう。



畦畔の一斉草刈りで、カメムシや病原菌を発生させない。

草刈作業の省力化!!

暑い期間に何回も畦畔や雑草地の草刈作業を行うのは大変です。この対策として「抑草剤(グラスショット液剤)」があります。これは、通常の除草剤と異なり、枯らす程の力は無いが、草の伸びを長期間抑制するため、草刈りの回数を減らせます。 ※剤の詳細については平成30年度冬期座談会資料10~11P参照してください。

- 2) 大麦収穫後圃場は、大豆・キャベツ・ハトムギ・クロタリヤ等の作物を栽培して有効に活用しましょう。

なお、大麦収穫後からキャベツ等の栽培開始までに日数を要する場合は、適切に圃場を管理しましょう。

対策2:てんたかく圃場の適期・適正な防除の実施

・穂揃期(1回目)と傾穂期(2回目)の2回防除を行いましょ。 (下表参照)

＜防除時期の具体的な日程は次号に掲載します＞

	7月中旬頃(穂揃期:1回目)	7月下旬頃(傾穂期:2回目)
[粉剤]	[キラップ粉剤DL] 4kg/10a	[スタークル粉剤DL] 3kg/10a
《液剤》	《キラップフロアブル》75mL/10a(2000倍)	《スタークル液剤10》150mL/10a(1000倍)

6. クサネムの防除 ~クサネム種子の混入に注意しましょう~

クサネムは刈取りの邪魔になる上、種子が出荷製品に混入すると異物混入としてクレームの対象となります。良質米産地としての信頼を得るために、混入防止に努めましょう。

- クサネムの種子は色彩選別機でも全て除去するのは困難なため、収穫前に抜き取ってください。
- 後期除草剤の散布は収穫前日数等の散布時期がありますので、薬剤ラベルを確認の上、適切に散布して下さい!



7. GAPの意識を高めましょう!!

畦畔の草刈りなど、刈払機を使用する機会が多くなります。刈払機は、足場の悪い法面での転倒や回転刃による切傷・裂傷など、事故の危険性が高いことから、事故防止対策を徹底しましょう。

◇GAP手法を活用した刈払機による事故の未然防止対策(例)

